

(81) 指定国(表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DJ, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IR, IS, IT, JO, KE, KG, KH, KN, KP, KR, KW, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, WS, ZA, ZM, ZW.

(84) 指定国(表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:

一 国際調査報告 (条約第21条(3))

the longitudinal direction. The first cross end edge and the second cross end edge are offset from each other in the cross direction.

(57) 要約: 液体を含浸させたスキンケア用シートの展開時の操作性を向上させる。一態様にかかるスキンケア用シート (1) は、 45 g/m^2 以上 70 g/m^2 以下の坪量のシート層 (2) に 400 重量% 以上 600 重量% 以下の液体が含浸され、シート層 (2) が折り目を基点に折り畳まれた折り畳み状態で包装袋 (90) に収容される。折り目は、折り畳み状態からシート層を展開する際に、最初の展開の基点となる開始折り目 (FL1) を有する。折り畳み状態のシート層は、開始折り目に沿う横方向 (CD) と、横方向と直交する縦方向 (LD) と、開始折り目を挟んで配置され、互いに積層された第1領域 (10) と第2領域 (20) と、を有する。第1領域は、縦方向の端縁であって開始折り目と反対側に位置する第1縦端縁 (11) と、横方向の一方側に位置する第1横端縁 (12) と、を有する。第2領域 (20) は、縦方向の端縁であって開始折り目と反対側に位置する第2縦端縁 (21) と、横方向の一方側に位置する第2横端縁 (22) と、を有する。第1縦端縁と第2縦端縁は、縦方向においてずれている。第1横端縁と第2横端縁は、横方向においてずれている。

明 細 書

発明の名称： スキンケア用シート及びシート包装体

技術分野

[0001] 本発明は、クレンジングシート等、液体を含浸させたスキンケア用シート、及びスキンケア用シートを包装したシート包装体に関する。

背景技術

[0002] 特許文献1には、液体を含浸させたスキンケア用シートが開示されている。特許文献1のスキンケア用シートは、一般的に、使用時まで液体を保持するために、容器内に複数積層された状態で収容されている。また、スキンケア用シートは、使用する際の面積を確保しつつ、容器をコンパクトにするために、複数折りたたまれた状態で容器内に収容されている。使用者は、使用時に容器のふたを開け、容器の開口から1枚ずつ取り出し、折り畳まれたシートを展開して使用する（例えば、特許文献1の図8参照）。

先行技術文献

特許文献

[0003] 特許文献1：特開2016-151070号公報

発明の概要

[0004] スキンケア用シートは、化粧液等の液体を含浸させており、液体を含浸していない乾式のシートと比較して、積層されたシート同士の接合力が強く、使用時に展開し難いことがある。特に、多量の液体を含浸させたスキンケア用シートにあっては、その接合力も強くなり、展開し易さが求められている。

[0005] 本発明は、このような問題に鑑みてなされたものであり、液体を含浸させたスキンケア用シートの展開時の操作性を向上させることを目的とする。

[0006] 一態様にかかるスキンケア用シートは、 45 g/m^2 以上 70 g/m^2 以下の坪量のシート層に400重量%以上600重量%以下の液体が含浸され、前記シート層が折り目を基点に折り畳まれた折り畳み状態で包装袋に収容さ

れる。前記折り目は、前記折り畳み状態から前記シート層を展開する際に、最初の展開の基点となる開始折り目を有する。前記折り畳み状態の前記シート層は、前記開始折り目に沿う横方向と、前記横方向と直交する縦方向と、前記開始折り目を挟んで配置され、互いに積層された第1領域と第2領域と、を有する。前記第1領域は、前記縦方向の端縁であって前記開始折り目と反対側に位置する第1縦端縁と、前記横方向の一方側に位置する第1横端縁と、を有する。前記第2領域は、前記縦方向の端縁であって前記開始折り目と反対側に位置する第2縦端縁と、前記横方向の前記一方側に位置する第2横端縁と、を有する。前記第1縦端縁と前記第2縦端縁は、前記縦方向においてずれている。前記第1横端縁と前記第2横端縁は、前記横方向においてずれている。

[0007] 一態様にかかるシート包装体は、スキンケア用シートと、前記スキンケア用シートを包装する包装袋と、を有する。包装袋は、前記スキンケア用シートの出し入れするための開封口が形成可能な開封領域を有する。前記開封領域は、前記包装体の前記縦方向の一端側に設けられている。前記スキンケア用シートの前記第1縦端縁及び前記第2縦端縁は、開封領域側に配置されている。

図面の簡単な説明

[0008] [図1]図1は、実施形態にかかるシート包装体の斜視図である。

[図2]図2は、実施形態に係るスキンケア用シートの斜視図である。

[図3]図3は、図1に示すスキンケア用シートの平面図である。

[図4]図4は、図3に示すA-A線に沿った模式断面図である。

[図5]図5は、図4のB部分の拡大模式図である。

[図6]図6は、変形例に係るスキンケア用シートを示した図である。

[0009] (1) 実施形態の概要

本明細書及び添付図面の記載により、少なくとも以下の事項が明らかとなる。

一態様にかかるスキンケア用シートは、 45 g/m^2 以上 70 g/m^2 以下

の坪量のシート層に400重量%以上600重量%以下の液体が含浸され、前記シート層が折り目を基点に折り畳まれた折り畳み状態で包装袋に収容される。前記折り目は、前記折り畳み状態から前記シート層を展開する際に、最初の展開の基点となる開始折り目を有する。前記折り畳み状態の前記シート層は、前記開始折り目に沿う横方向と、前記横方向と直交する縦方向と、前記開始折り目を挟んで配置され、互いに積層された第1領域と第2領域と、を有する。前記第1領域は、前記縦方向の端縁であって前記開始折り目と反対側に位置する第1縦端縁と、前記横方向の一方側に位置する第1横端縁と、を有する。前記第2領域は、前記縦方向の端縁であって前記開始折り目と反対側に位置する第2縦端縁と、前記横方向の前記一方側に位置する第2横端縁と、を有する。前記第1縦端縁と前記第2縦端縁は、前記縦方向においてずれている。前記第1横端縁と前記第2横端縁は、前記横方向においてずれている。本態様によれば、第1領域の第1縦端縁と第2領域の第2縦端縁が縦方向にずれているため、使用者は、当該ずれている部分をつかむことにより、第1領域と第2領域を容易に剥離させ、開始折り目を基点にシート層を展開できる。同様に、第1領域の第1横端縁と第2領域の第2横端縁が横方向にずれているため、使用者は、当該ずれている部分をつかむことにより、第1領域と第2領域を容易に剥離させ、開始折り目を基点にシート層を展開できる。400重量%以上600重量%以下の多量の液体が含浸されたスキンケア用シートにおいて、シート層同士の表面張力が高くなった場合であっても、容易に展開することができ、展開時の操作性を向上できる。

[0010] 好ましい態様によれば、前記シート層は、平面方向に延びる表面と、前記表面と反対側の裏面と、を有する。前記表面及び前記裏面の少なくとも一方には、凹凸構造が形成されている。本態様によれば、シート層の表面又は裏面に凹凸構造が形成され、又はシート層の表面及び裏面の両方に凹凸構造が形成されている。凹凸構造と当接する面の表面張力が低減され、展開時の抵抗が低減される。よって、使用者は、シート層をより展開し易くなる。

[0011] 好ましい態様によれば、前記凹凸構造は、前記第1領域において前記第2

領域と対向する面、及び前記第2領域において前記第1領域と対向する面の少なくとも一方に形成されている。本態様によれば、開始折り目を基点に展開する際に、第1領域と第2領域が剥離し易くなり、シート層を容易に展開することができ、展開時の操作性を向上できる。

[0012] 好ましい態様によれば、前記凹凸構造は、前記表面及び前記裏面の一方のみに形成されている。凹凸構造を有する面は、凹凸構造によって肌に触れた際の表面積が大きくなりやすく、当該凹凸構造を有する面を肌に当てることで、液体の付与効果や汚れを拭き取る効果を高めることができる。このとき、凹凸構造が一方の面のみに配置されているため、使用者が触感によって肌に当てるべき凹凸構造が形成された面を把握できる。

[0013] 好ましい態様によれば、前記凹凸構造の凹部は、凸部よりも坪量が低い低坪量部である。本態様によれば、シート層に目付が異なる部分が形成されるため、当該シート層に目付の違いによる濃淡が形成される。スキンケア用シートによって汚れを拭き取った際に、当該汚れが周囲の濃淡によって目立ちやすくなる。また、シート層に汚れが付着した範囲を濃淡によって把握しやすく、未使用の範囲を容易に把握できる。

[0014] 好ましい態様によれば、前記折り畳み状態の前記シート層は、前記開始折り目を基点に折り畳まれるとともに、前記縦方向に沿う縦折り目を基点に折り畳まれている。本態様によれば、第1領域内においてシート層が折り畳まれているとともに、第2領域内においてシート層が折り畳まれているため、積層されたシート層の同士のずれが生じやすく、シート層のつまみ部が多数の領域で形成され、使用者がシート層をより展開し易くなる。

[0015] 好ましい態様によれば、前記第1縦端縁と前記第2縦端縁の前記縦方向の間隔は、5 mm以上10 mm以下である。本態様によれば、第1縦端縁と前記第2縦端縁の間隔が5 mm以上であることため、シート層がずれている部分を指でつかみやすい。また、一般的に、液体を含浸させる際は、シート層を折り畳んだ状態で、折り目を構成する開始折り目側から液体を供給し、当該液体が平面方向に拡散することで、折り畳み状態のシート層全体に液体を

浸透させる。このとき、第1縦端縁と第2縦端縁の間隔が長すぎると、第1領域と第2領域のうち延出した部分全体に液体が浸透せずに、含浸むらが生じるおそれがある。しかし、第1縦端縁と前記第2縦端縁の間隔が10mm以下であるため、液体の含浸むらを抑制できる。

[0016] 一態様にかかるシート包装体は、スキンケア用シートと、前記スキンケア用シートを包装する包装袋と、を有する。前記包装袋は、前記スキンケア用シートの出し入れするための開封口が形成可能な開封領域を有する。前記開封領域は、前記包装袋の前記縦方向の一端側に設けられている。前記スキンケア用シートの前記第1縦端縁及び前記第2縦端縁は、開封領域側に配置されている。本態様によれば、開封領域において開封口を形成した際に、使用者は、開封口から指を挿入して、第1縦端縁及び第2縦端縁の少なくとも一方をつかんでシートを取り出すことができる。当該取り出し操作に続いて、シート層の展開操作を容易に行うことができる。

[0017] (2) 実施形態に係るスキンケア用シート及びシート包装体の全体概略構成

以下、図面を参照して、実施形態に係るスキンケア用シート及びシート包装体について説明する。なお、以下の図面の記載において、同一又は類似の部分には、同一又は類似の符号を付している。ただし、図面は模式的なものであり、各寸法の比率等は現実のものとは異なることに留意すべきである。したがって、具体的な寸法等は、以下の説明を参酌して判断すべきである。また、図面相互間においても互いの寸法の関係や比率が異なる部分が含まれる。

[0018] 図1は、実施形態にかかるシート包装体100の斜視図である。図2は、実施形態にかかるスキンケア用シート1の斜視図である。図3は、スキンケア用シート1の平面図である。図4は、図3に示すA-A断面図であり、図5は、図4のB部分を拡大した模式図である。シート包装体100は、スキンケア用シート1と、スキンケア用シート1を包装する包装袋90と、を有する。包装袋90内に、一枚のスキンケア用シート1が収容されていてもよ

いし、複数枚のスキンケア用シート1が收容されていてもよい。本実施の形態では、1枚のスキンケア用シート1が包装袋90内に收容されている。スキンケア用シート1は、使用前に包装袋90内で密閉されており、使用前の劣化を抑制されている。

[0019] スキンケア用シート1は、使用者の肌に当てて使用するシートであり、顔用のシートであってもよいし、身体用のシートであってもよい。スキンケア用シート1は、400重量%以上600重量%以下の液体が含浸された湿式のシートである。液体は、クレンジング剤、保湿液、化粧水、アルコール、消毒液等、身体に付与するものであればよい。本実施の形態は、クレンジング剤を含浸させた化粧の拭き取りシートである。重量は、包装袋90内の液体の重量でなく、スキンケア用シート1において保持している液体の重量である。重量%は、以下の方法によって算出できる。包装袋90からスキンケア用シート1を1枚取り出し、当該スキンケア用シート1全体の重量を測定する。当該スキンケア用シート1の重量をAとする。次いで、当該スキンケア用シート1を絶対乾燥状態になるまで乾燥させ、乾燥後のスキンケア用シート単体の重量を測定する。当該スキンケア用シートの重量をBとする。重量%は、 $(A - B) / B$ によって算出する。なお、絶対乾燥状態は、すべての薬液（不揮発性成分含む）を乾燥させ不織布のみ残存している状態である。

[0020] スキンケア用シート1は、 45 g/m^2 以上 70 g/m^2 以下の坪量のシート層2を有する。シート層2は、繊維材料をシート状に形成した基材（例えば、不織布、ガーゼ、コットンシート、ティッシュペーパー）によって構成されてよい。 45 g/m^2 以上 70 g/m^2 以下の坪量のシート層2によれば、肌に当てた際に破れ難く、かつ液体を一定量保持し、肌に対して液体を付与し続け易い。シート層2は、折り目を基点に折り畳まれた折り畳み状態で、包装袋90に收容されている。折り畳み状態のスキンケア用シート1は、包装袋90内から取り出した状態のスキンケア用シートであり、1又は複数の折り目を基点に折り畳まれている。

[0021] 折り目は、折り畳み状態からシート層2を展開する際に、最初の展開の基点となる開始折り目FL1を有する。使用者は、包装袋90内からスキンケア用シート1を取り出した後、そのまま使用したり、展開して使用したりする。開始折り目FL1は、最初にシート層2を展開する際に基点となる折り目であり、換言すると、シート層2を折り畳む際の最後の折り工程における折り目である。図2に示すように、折り畳み状態のシート層2は、開始折り目FL1に沿う横方向CDと、横方向CDと直交する縦方向LDと、を有する。横方向CD及び縦方向LDは、平面方向に延び、互いに直交している。なお、本発明において、一定の方向に延びる形態は、当該方向と平行な構成のみならず、当該方向に対する角度が15度未満の構成を含む概念である。

[0022] 折り畳み状態のシート層2は、開始折り目FL1を挟んで配置され、互いに積層された第1領域10と第2領域20を有する。第1領域10は、縦方向LDの端縁であって開始折り目FL1と反対側に位置する第1縦端縁11と、縦方向LDの端縁であって開始折り目側に位置する第1開始縁13と、横方向CDの一方側に位置する第1横端縁12と、横方向CDの他方側に位置する第1他端縁14と、を有してよい。第1領域は、第1縦端縁11、第1横端縁12、第1開始縁13、及び第1他端縁14によって囲まれた領域である。第1縦端縁11及び第1開始縁13は、横方向CDに延びている。第1横端縁12及び第1他端縁14は、縦方向LDに延びている。第1開始縁13は、開始折り目FL1に一致してよい。第2領域20は、縦方向LDの端縁であって開始折り目FL1と反対側に位置する第2縦端縁21と、縦方向LDの端縁であって開始折り目側に位置する第2開始縁23と、横方向CDの一方側に位置する第2横端縁22と、横方向CDの他方側に位置する第2他端縁24と、を有してよい。第2領域20は、第2縦端縁21、第2横端縁22、第2開始縁23、及び第2他端縁24によって囲まれた領域である。第2縦端縁21及び第2開始縁23は、横方向CDに延びている。第2横端縁22及び第2他端縁24は、縦方向LDに延びている。第2開始縁23は、開始折り目FL1に一致してよい。

[0023] 第1縦端縁11と第2縦端縁21は、縦方向LDにおいてずれている。すなわち、第1領域10の縦方向LDの長さと、第2領域20の縦方向LDの長さと、は一致していない。第1領域10の第1縦端縁11と第2領域20の第2縦端縁21が縦方向LDにずれているため、使用者は、当該ずれている部分をつかむことにより、第1領域10と第2領域20を容易に剥離させ、開始折り目FL1を基点にシート層2を展開できる。また、第1横端縁12と第2横端縁22は、横方向CDにおいてずれている。使用者は、第1横端縁及び第2横端縁のずれている部分をつかむことにより、第1領域10と第2領域20を容易に剥離させ、開始折り目FL1を基点にシート層2を展開できる。好適には、第1他端縁14と第2他端縁24も、横方向CDにおいてずれてよい。使用者は、第1他端縁14と第2他端縁24側において、当該ずれている部分をつかむことにより、第1領域10と第2領域20を容易に剥離させ、開始折り目FL2を基点にシート層2を展開できる。なお、第1領域10及び第2領域20において複数のシート層が積層されている場合の縁は、積層されたシート層のうち最も外側に位置する縁にて規定する。本態様によれば、400重量%以上600重量%以下の多量の液体が含浸されたスキンケア用シート1において、シート層2同士の表面張力が高くなった場合であっても、容易に展開することができ、展開時の操作性を向上できる。また、容易にシート層2を容易に展開できるため、シート層2を折り畳んでコンパクトに収容できる。

[0024] シート層2は、平面方向に延びる表面81と、表面81と反対側の裏面82と、を有する。表面81及び裏面82は、展開状態のシート層2における面である。表面81及び裏面82の少なくとも一方には、凹凸構造85が形成されてよい。凹凸構造85は、繊維の有無による不規則な凹凸でなく、規則的に形成された凹凸を指している。凹凸構造85を構成する凸部及び凹部は、厚みが異なっており、エンボスや低目付部によって形成できる。本態様によれば、シート層2の表面81又は裏面82に凹凸構造85が形成され、又はシート層2の表面81及び裏面82の両方に凹凸構造85が形成されて

いる。凹凸構造 85 と当接する面の表面張力が低減され、展開時の抵抗が低減される。よって、使用者は、シート層をより展開し易くなる。凹凸構造は、その高さは、特に制限されない。しかし、好適には、凹部と凸部の厚み差が $200\ \mu\text{m}$ 以上、凹部と凸部の厚み差は、凸部の厚みの半分以下であってよく、その凸部の幅は、 $2.0\ \text{mm}$ 以上であってよい。

[0025] 以下、凹凸構造を有しない比較例に係るスキンケア用シートと、実施の形態にかかるスキンケア用シートと、を用いて、折り畳み状態のスキンケア用シートを展開するまでの時間を測定した。比較例に係るスキンケア用シートと実施形態にかかるスキンケア用シートは、同じ態様で折り畳まれている。試験者 5 人が、それぞれ各シートを 3 回展開し、展開するまでの時間を測定した。測定結果を表 1 に示す。表 1 に示すように、凹凸構造の有無によって、展開時間が大幅に変わることがわかった。凹凸構造を有するスキンケア用シートによれば、展開操作を円滑に行うことができ、展開操作を迅速に行うことができる。

[0026] [表1]

		試験者 1	試験者 2	試験者 3	試験者 4	試験者 5	平均	最大	最小
実施例 1	1 回目	12	15	17	13	15	14.4	17	12
	2 回目	14	17	18	16	17	16.4	18	14
	3 回目	15	17	19	20	20	18.2	20	15
比較例 1	1 回目	4	5	5	4.5	4	4.5	5	4
	2 回目	5	5.5	6	6	6.5	5.8	6.5	5
	3 回目	6	6	7	7	8	6.8	8	6

(単位:秒)

図 4 に示すように、凹凸構造 85 は、第 1 領域 10 において第 2 領域 20 と対向する第 1 対向面 15、及び第 2 領域 20 において第 1 領域 10 と対向する第 2 対向面 25 の少なくとも一方に形成されている。本実施の形態の凹凸構造 85 は、第 1 対向面 15 及び第 2 対向面 25 の両方に形成されている。本態様によれば、開始折り目 FL1 を基点に展開する際に、第 1 領域 10 と第 2 領域 20 が剥離し易くなり、シート層 2 を容易に展開することができ、展開時の操作性を向上できる。

[0027] 凹凸構造 85 は、シート層 2 の最も手前側に位置する手前表面 5 の裏側に位置する手前裏面 6（図 4 参照）と、第 1 対向面 15 と、の少なくとも一方に設けられてよい。出願人が使用態様を種々調査したところ、多数の使用人は、開始折り目 FL1 を基点に開封する際に、第 1 対向面 15 に人差し指を当てるとともに手前表面 5 に親指を当てた状態、又は手前表面 5 に親指をあてるとともに当該手前表面 5 の裏側の手前裏面 6 に人差し指をあてた状態で、シート層 2 を把持し、展開することがわかった。このようにシート層 2 を把持した状態で、シート層 2 を展開すると、人差し指に凹凸構造 85 が形成された面があたり、親指に反対面があたる。また、使用者によっては、シート層 2 を一旦展開した後に折り畳んで使用することがある。このとき、一般的に、使用者は、親指が位置する面を手前にし、かつ当該手前の面を内側にして折りたたむ。よって、折りたたんだ状態で、シート層の外側には、凹凸構造 85 が形成された面が配置される。使用者は、意識せずに凹凸構造 85 が形成された面を肌に当てて、スキンケア用シートを使用することができる。凹凸構造 85 を有する面は、凹凸構造 85 によって肌に触れた際の表面積が大きくなりやすく、当該凹凸構造を有する面を肌に当てることで、液体の付与効果や汚れを拭き取る効果を高めることができる。

[0028] 凹凸構造 85 は、シート層 2 の表面 81 及び裏面 82 の一方のみに形成されてよい。凹凸構造 85 を有する面は、凹凸構造 85 によって肌に触れた際の表面積が大きくなりやすく、当該凹凸構造 85 を有する面を肌に当てることで、液体の付与効果や汚れを拭き取る効果を高めることができる。このとき、凹凸構造 85 が一方の面のみに配置されているため、使用者が触感によって肌に当てるべき凹凸構造 85 が形成された面を把握できる。

[0029] 凹凸構造 85 の凹部は、凸部よりも坪量が低い低坪量部であってよい。シート層 2 に目付が異なる部分が形成されるため、当該シート層 2 に目付の違いによる濃淡が形成される。スキンケア用シート 1 によって汚れを拭き取った際に、当該汚れが周囲の濃淡によって目立ちやすくなる。また、シート層 2 に汚れが付着した範囲を濃淡によって把握し易く、未使用の範囲を容易に

把握できる。

[0030] 折り畳み状態のシート層2は、開始折り目FL1を基点に折り畳まれるとともに、縦方向に沿う縦折り目FL11、FL12を基点に折り畳まれてよい。本実施の形態のシート層2は、開始折り目FL1以外に、複数の折り目を基点に折り畳まれている。より詳細には、シート層2は、展開状態から、縦方向LDに延びる第1縦折り目FL11及び第2縦折り目FL12を基点に折り畳まれ、次いで、開始折り目FL1を基点に折り畳まれている。よって、折り畳み状態のシート層2は、6層に積層されている。当該構成によれば、第1領域10内においてシート層2が折り畳まれているとともに、第2領域20内においてシート層2が折り畳まれているため、積層されたシート層の同士のずれが生じやすく、シート層2のつまみ部が多数の領域で形成され、使用者がシート層2をより展開し易くなる。また、縦方向LD及び横方向CDの両方に折り畳まれているため、シート層2をコンパクトに収容できる。

[0031] 本実施の形態のスキンケア用シート1は、第1縦折り目FL11及び第2縦折り目FL12を基点に折り畳まれた状態で、3層の横方向CDの長さは、略同一である。しかし、好適には、6層のうち最も手前側に位置する層（第2縦折り目FL12から横方向CDの外側に延びる領域）の横方向CDの長さが、第1縦折り目FL11と第2縦折り目FL12の間の領域の横方向CDの長さよりも短くてよい。第1領域10内で積層されたシート層2において、横方向CDの長さが異なるため、第1領域10内の積層されたシート層2のうちの1層を掴みやすくなり、シート層2をより展開し易い。

[0032] 第1縦端縁11と第2縦端縁21の縦方向の間隔G1（図3参照）は、5mm以上10mm以下であってよい。第1縦端縁11と第2縦端縁21の間隔G1が5mm以上であることにより、シート層2がずれている部分を指でつかみやすい。また、一般的に、液体を含浸させる際は、シート層2を折り畳んだ状態で、開始折り目FL1側から液体を供給し、当該液体が平面方向に拡散することで、折り畳み状態のシート層2全体に液体を浸透させる。こ

のとき、第1縦端縁11と第2縦端縁21の間隔G1が長すぎると、第1領域10と第2領域20のうち延出した部分全体に液体が浸透せずに、含浸むらが生じるおそれがある。しかし、第1縦端縁11と第2縦端縁21の間隔G1が10mm以下であるため、液体の含浸むらを抑制できる。また、折り畳み状態からシート層2を容易に展開可能に構成するために、第1横端縁12と第2横端縁22の横方向CDの間隔G2（図3参照）は、5mm以上であってよい。

[0033] 図1に示すように、包装袋90は、スキンケア用シートの出し入れするための開封口が形成可能な開封領域R10を有する。開封領域R10は、切込み、ミシン目、ハサミ等で切断する位置を示した目印部によって開封口が形成される領域である。開封領域R10は、包装袋90の縦方向の一端側に設けられている。本実施の形態は、縦方向LDにおけるシート層2の開始折り目FL1と反対側の端部に設けられており、包装袋90の横方向CDの両側に形成された切り欠き95によって開封口が形成される領域である。スキンケア用シートの第1縦端縁11及び第2縦端縁21は、開封領域R10側に配置されている。本態様によれば、開封領域R10において開封口を形成した際に、使用者は、開封口から指を挿入して、第1縦端縁11及び第2縦端縁21の少なくとも一方をつかんでシート層2を取り出すことができる。当該取り出し操作に続いて、容易にシート層2を展開することができる。

[0034] 次いで、図6に基づいて変形例に係るスキンケア用シート1を説明する。なお、以下の説明において、上述の実施形態と同様の構成については、同符号を用いて説明を省略する。図6は、変形例1から変形例6に係るスキンケア用シートのシート層2Aから2Fの展開状態及び折り畳み状態を示している。変形例1に示すシート層2A及び変形例2に係るシート層2Bは、折り畳み状態において開始折り目FL1のみを基点に折り畳まれている。変形例3に係るシート層2Cは、横方向CDに延びる開始折り目FL1の前に、縦方向LDに延びる縦折り目を基点に折り畳まれている。変形例4に係るシート層2Dは、開始折り目FL1と同じ横方向CDに延びる横折り目を基点に

折り畳まれている。当該構成によれば、全ての折り線が同じ方向に沿うため、使用者は、容易に展開方向を把握できる。変形例 5 に係るシート層 2 E は、変形例 4 に係るシート層 2 D を更に、縦方向に延びる縦折り目を基点に折り畳んでいる。変形例 6 に係るシート層 2 F は、展開状態で矩形でなく、円形である。当該円形のシート層においても、折り畳み状態で、第 1 縦端縁 1 1 と第 2 縦端縁が異なるため、シート層を折り畳み状態から容易に展開できる。

[0035] 以上、上述の実施形態を用いて本発明について詳細に説明したが、当業者にとっては、本発明が本明細書中に説明した実施形態に限定されるものではないということは明らかである。本発明は、特許請求の範囲の記載により定まる本発明の趣旨及び範囲を逸脱することなく修正及び変更態様として実施することができる。したがって、本明細書の記載は、例示説明を目的とするものであり、本発明に対して何ら制限的な意味を有するものではない。

[0036] なお、2020 年 12 月 28 日に出願された日本国特許出願第 2020-219524 号の全内容が、参照により、本明細書に組み込まれる。

産業上の利用可能性

[0037] 本態様によれば、液体を含浸させたスキンケア用シートの展開時の操作性を向上させたスキンケア用シートを提供できる。

符号の説明

[0038] 100：シート包装体、1：スキンケア用シート、2：シート層、10：第 1 領域、11：第 1 縦端縁、12：第 1 横端縁、20：第 2 領域、21：第 2 縦端縁、22：第 2 横端縁、81：表面、82：裏面、FL1：開始折り目、CD：横方向、LD：縦方向

請求の範囲

- [請求項1] 45 g/m²以上70 g/m²以下の坪量のシート層に400重量%以上600重量%以下の液体が含浸され、
- 前記シート層が折り目を基点に折り畳まれた折り畳み状態で包装袋に収容されるスキンケア用シートであって、
- 前記折り目は、前記折り畳み状態から前記シート層を展開する際に、最初の展開の基点となる開始折り目を有し、
- 前記折り畳み状態の前記シート層は、
- 前記開始折り目に沿う横方向と、
- 前記横方向と直交する縦方向と、
- 前記開始折り目を挟んで配置され、互いに積層された第1領域と第2領域と、を有し、
- 前記第1領域は、前記縦方向の端縁であって前記開始折り目と反対側に位置する第1縦端縁と、前記横方向の一方側に位置する第1横端縁と、を有し、
- 前記第2領域は、前記縦方向の端縁であって前記開始折り目と反対側に位置する第2縦端縁と、前記横方向の前記一方側に位置する第2横端縁と、を有し、
- 前記第1縦端縁と前記第2縦端縁は、前記縦方向においてずれており、
- 前記第1横端縁と前記第2横端縁は、前記横方向においてずれている、スキンケア用シート。
- [請求項2] 前記シート層は、平面方向に延びる表面と、前記表面と反対側の裏面と、を有し、
- 前記表面及び前記裏面の少なくとも一方には、凹凸構造が形成されている、請求項1に記載のスキンケア用シート。
- [請求項3] 前記凹凸構造は、前記第1領域において前記第2領域と対向する面、及び前記第2領域において前記第1領域と対向する面の少なくとも

一方に形成されている、請求項 2 に記載のスキンケア用シート。

[請求項4] 前記凹凸構造は、前記表面及び前記裏面の一方のみに形成されている、請求項 2 又は請求項 3 に記載のスキンケア用シート。

[請求項5] 前記凹凸構造の凹部は、凸部よりも坪量が低い低坪量部である、請求項 2 から請求項 4 のいずれか 1 項に記載のスキンケア用シート。

[請求項6] 前記折り畳み状態の前記シート層は、前記開始折り目を基点に折り畳まれるとともに、前記縦方向に沿う縦折り目を基点に折り畳まれている、請求項 1 から請求項 5 のいずれか 1 項に記載のスキンケア用シート。

[請求項7] 前記第 1 縦端縁と前記第 2 縦端縁の前記縦方向の間隔は、5 mm 以上 10 mm 以下である、請求項 1 から請求項 6 のいずれか 1 項に記載のスキンケア用シート。

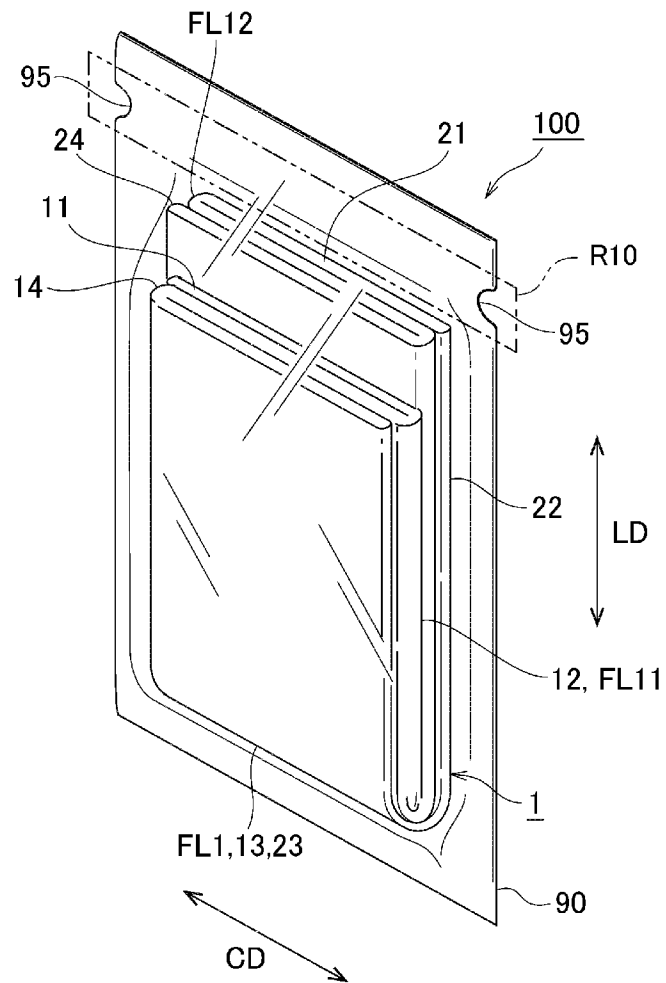
[請求項8] 請求項 1 から請求項 7 のいずれかに記載のスキンケア用シートと、前記スキンケア用シートを包装する包装袋と、を有するシート包装体であって、

前記包装袋は、前記スキンケア用シートの出し入れするための開封口が形成可能な開封領域を有し、

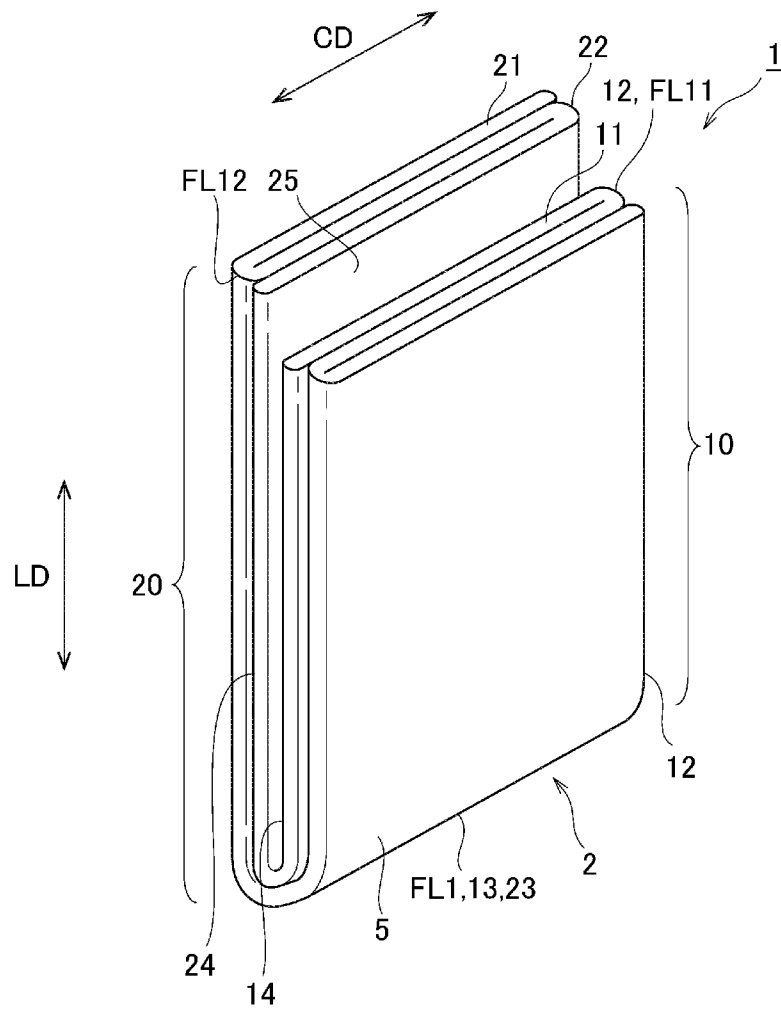
前記開封領域は、前記包装袋の前記縦方向の一端側に設けられており、

前記スキンケア用シートの前記第 1 縦端縁及び前記第 2 縦端縁は、前記開封領域側に配置されている、シート包装体。

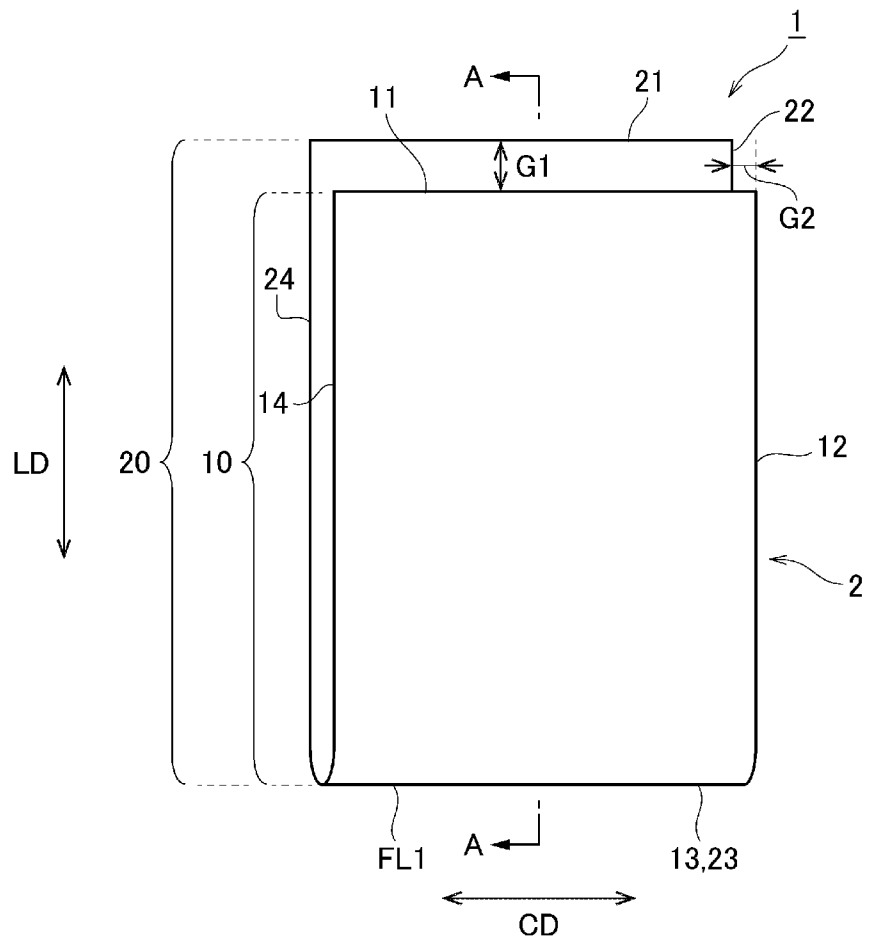
[図1]



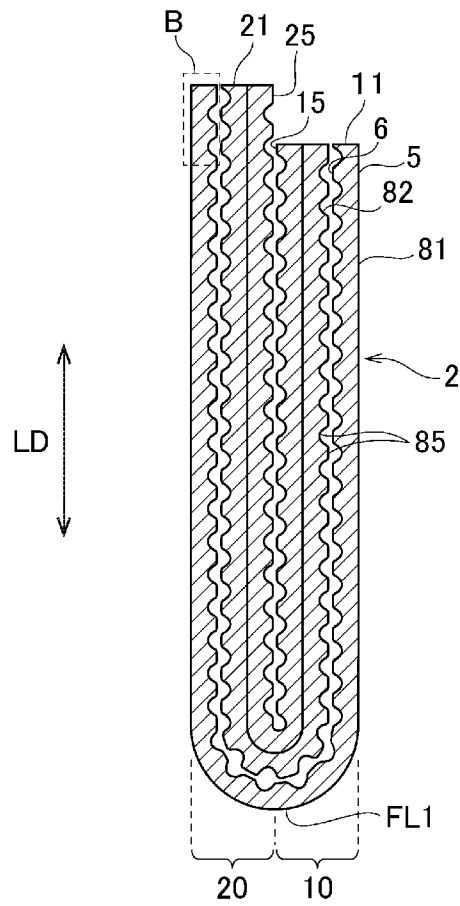
[図2]



[図3]

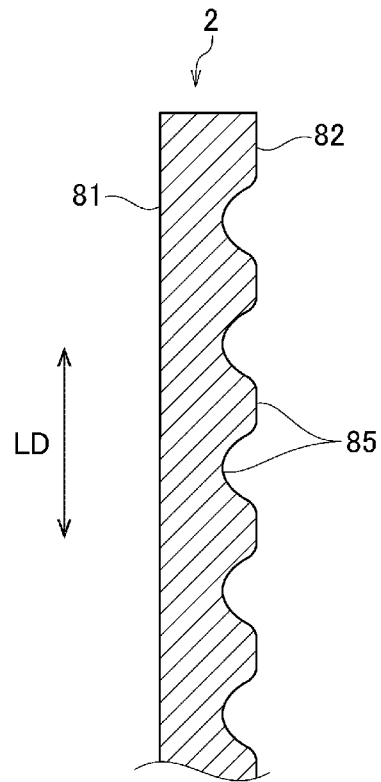


[図4]

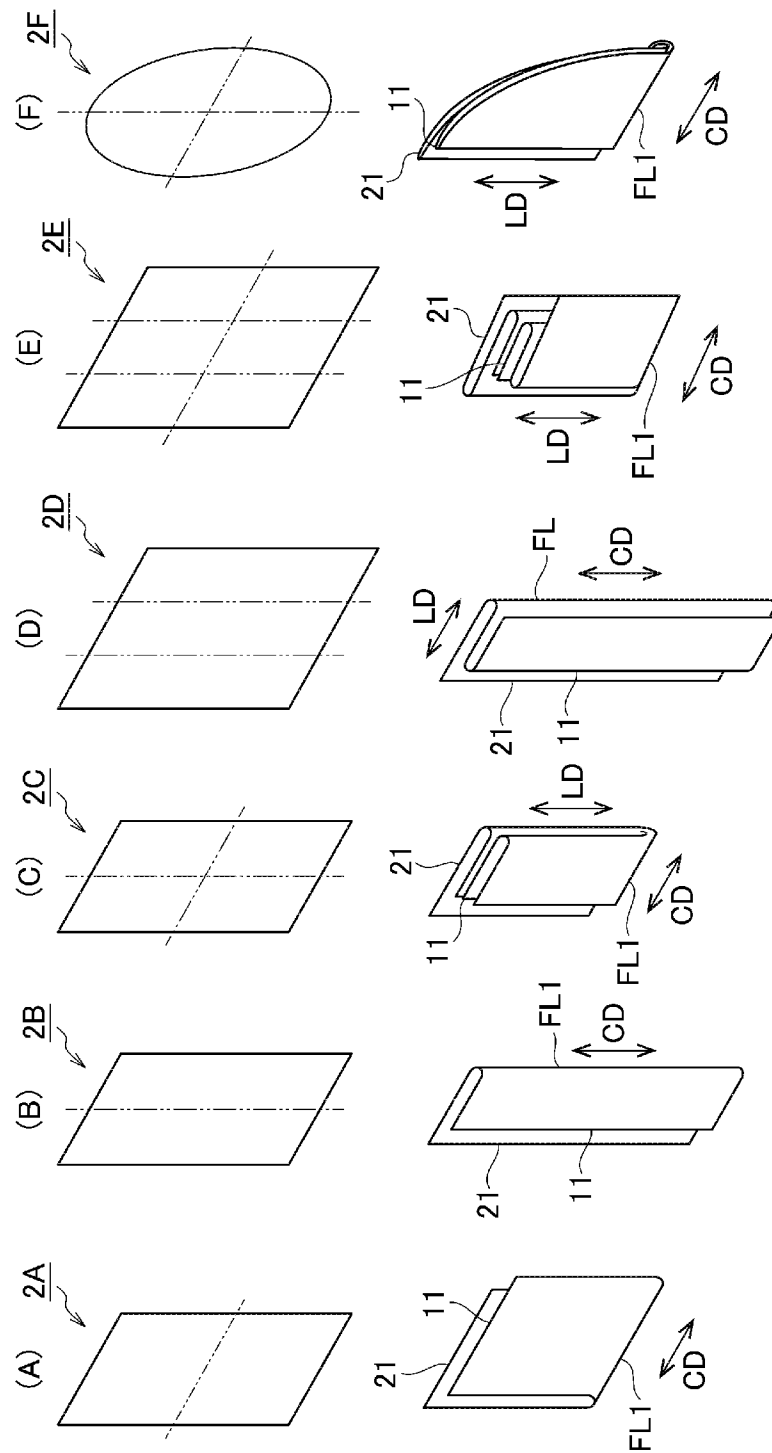


A-A断面図

[図5]



[図6]



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2021/046354

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER**B65D 77/00**(2006.01)i; **D04H 13/00**(2006.01)i; **A61Q 19/00**(2006.01)i; **A61K 8/02**(2006.01)i; **A47K 7/00**(2006.01)i

FI: A47K7/00 E; A61K8/02; A61Q19/00; D04H13/00; A47K7/00 H; B65D77/00 C

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

B65D77/00; D04H13/00; A61Q19/00; A61K8/02; A47K7/00

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Published examined utility model applications of Japan 1922-1996

Published unexamined utility model applications of Japan 1971-2022

Registered utility model specifications of Japan 1996-2022

Published registered utility model applications of Japan 1994-2022

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	JP 2013-144864 A (KAO CORP.) 25 July 2013 (2013-07-25) paragraphs [0033], [0044], [0046], fig. 1	1-8
Y	JP 2012-152473 A (UNICHARM CORP.) 16 August 2012 (2012-08-16) paragraphs [0013], [0022]-[0028], fig. 1, 8-12	1-8
Y	JP 2002-038363 A (DAIO PAPER CORP.) 06 February 2002 (2002-02-06) paragraphs [0002], [0012], fig. 2	5-8
A	KR 10-2013-0043713 A (I, Seok Geun) 02 May 2013 (2013-05-02) entire text, all drawings	1-8

☐ Further documents are listed in the continuation of Box C.☒ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

“A” document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

“E” earlier application or patent but published on or after the international filing date

“L” document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

“O” document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

“P” document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

“T” later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

“X” document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

“Y” document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

“&” document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search

19 January 2022

Date of mailing of the international search report

01 February 2022

Name and mailing address of the ISA/JP

Japan Patent Office (ISA/JP)
3-4-3 Kasumigaseki, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8915
Japan

Authorized officer

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT
Information on patent family members

International application No.

PCT/JP2021/046354

Patent document cited in search report			Publication date (day/month/year)	Patent family member(s)	Publication date (day/month/year)
JP	2013-144864	A	25 July 2013	(Family: none)	
JP	2012-152473	A	16 August 2012	WO 2012/102263 A1 paragraphs [0013], [0022]- [0028], fig. 1, 8-12	
JP	2002-038363	A	06 February 2002	(Family: none)	
KR	10-2013-0043713	A	02 May 2013	(Family: none)	

<p>A. 発明の属する分野の分類（国際特許分類（IPC））</p> <p>B65D 77/00(2006.01)i; D04H 13/00(2006.01)i; A61Q 19/00(2006.01)i; A61K 8/02(2006.01)i; A47K 7/00(2006.01)i FI: A47K7/00 E; A61K8/02; A61Q19/00; D04H13/00; A47K7/00 H; B65D77/00 C</p>																	
<p>B. 調査を行った分野</p> <p>調査を行った最小限資料（国際特許分類（IPC））</p> <p>B65D77/00; D04H13/00; A61Q19/00; A61K8/02; A47K7/00</p> <p>最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの</p> <table border="0"> <tr> <td>日本国実用新案公報</td> <td>1922 - 1996年</td> </tr> <tr> <td>日本国公開実用新案公報</td> <td>1971 - 2022年</td> </tr> <tr> <td>日本国実用新案登録公報</td> <td>1996 - 2022年</td> </tr> <tr> <td>日本国登録実用新案公報</td> <td>1994 - 2022年</td> </tr> </table> <p>国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）</p>			日本国実用新案公報	1922 - 1996年	日本国公開実用新案公報	1971 - 2022年	日本国実用新案登録公報	1996 - 2022年	日本国登録実用新案公報	1994 - 2022年							
日本国実用新案公報	1922 - 1996年																
日本国公開実用新案公報	1971 - 2022年																
日本国実用新案登録公報	1996 - 2022年																
日本国登録実用新案公報	1994 - 2022年																
<p>C. 関連すると認められる文献</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>引用文献の カテゴリー*</th> <th>引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示</th> <th>関連する 請求項の番号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Y</td> <td>JP 2013-144864 A（花王株式会社）25.07.2013（2013 - 07 - 25） [0033]、[0044]、[0046]、図1</td> <td>1-8</td> </tr> <tr> <td>Y</td> <td>JP 2012-152473 A（ユニ・チャーム株式会社）16.08.2012（2012 - 08 - 16） [0013]、[0022] - [0028]、図1、8 - 12</td> <td>1-8</td> </tr> <tr> <td>Y</td> <td>JP 2002-038363 A（大王製紙株式会社）06.02.2002（2002 - 02 - 06） [0002]、[0012]、図2</td> <td>5-8</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>KR 10-2013-0043713 A（I, Seok Geun）02.05.2013（2013 - 05 - 02） 全文全図</td> <td>1-8</td> </tr> </tbody> </table>			引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号	Y	JP 2013-144864 A（花王株式会社）25.07.2013（2013 - 07 - 25） [0033]、[0044]、[0046]、図1	1-8	Y	JP 2012-152473 A（ユニ・チャーム株式会社）16.08.2012（2012 - 08 - 16） [0013]、[0022] - [0028]、図1、8 - 12	1-8	Y	JP 2002-038363 A（大王製紙株式会社）06.02.2002（2002 - 02 - 06） [0002]、[0012]、図2	5-8	A	KR 10-2013-0043713 A（I, Seok Geun）02.05.2013（2013 - 05 - 02） 全文全図	1-8
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号															
Y	JP 2013-144864 A（花王株式会社）25.07.2013（2013 - 07 - 25） [0033]、[0044]、[0046]、図1	1-8															
Y	JP 2012-152473 A（ユニ・チャーム株式会社）16.08.2012（2012 - 08 - 16） [0013]、[0022] - [0028]、図1、8 - 12	1-8															
Y	JP 2002-038363 A（大王製紙株式会社）06.02.2002（2002 - 02 - 06） [0002]、[0012]、図2	5-8															
A	KR 10-2013-0043713 A（I, Seok Geun）02.05.2013（2013 - 05 - 02） 全文全図	1-8															
<p>☐ C欄の続きにも文献が列挙されている。</p> <p>☒ パテントファミリーに関する別紙を参照。</p>																	
<p>* 引用文献のカテゴリー</p> <p>“A” 特に関連のある文献ではなく、一般的な技術水準を示すもの</p> <p>“E” 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの</p> <p>“L” 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）</p> <p>“O” 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献</p> <p>“P” 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願の日の後に公表された文献</p> <p>“T” 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と抵触するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの</p> <p>“X” 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの</p> <p>“Y” 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの</p> <p>“&” 同一パテントファミリー文献</p>																	
<p>国際調査を完了した日</p> <p>19.01.2022</p>		<p>国際調査報告の発送日</p> <p>01.02.2022</p>															
<p>名称及びあて先</p> <p>日本国特許庁(ISA/JP) 〒100-8915 日本国 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号</p>		<p>権限のある職員（特許庁審査官）</p> <p>広瀬 杏奈 2R 1570</p> <p>電話番号 03-3581-1101 内線 3285</p>															

国際調査報告
 パテントファミリーに関する情報

国際出願番号

PCT/JP2021/046354

引用文献			公表日	パテントファミリー文献	公表日
JP	2013-144864	A	25.07.2013	(ファミリーなし)	
JP	2012-152473	A	16.08.2012	WO 2012/102263 A1 段落 [0 0 1 3]、[0 0 2 2] - [0 0 2 8]、図 1、8 - 1 2	
JP	2002-038363	A	06.02.2002	(ファミリーなし)	
KR	10-2013-0043713	A	02.05.2013	(ファミリーなし)	